

指 導 係

1 指導関係事業

(1) 学校訪問

指導主事が随時訪問し、校長をはじめ教職員と協議懇談することにより、学校の抱える問題を解明し、指導・助言をした。また、要請により研究会等に出席し、指導・助言を行った。

(2) 研修会

令和3年度は、次の研修会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

ア	校長研修会	2回
イ	副校長研修会	1回
ウ	主幹教諭任用時研修会	1回
エ	主幹教諭研修会	1回
オ	主任教諭任用時研修会	1回
カ	情報教育研修会	2回
キ	福生市教員悉皆研修会	1回
ク	教育課題研修会	2回
ケ	教育研究会研修会（24部会）	12回
コ	不登校対応研修会	1回
サ	中堅教諭等資質向上研修会	10回
シ	初任者研修会	10回
ス	2年次教諭研修会	6回
セ	3年次教諭研修会	2回
ソ	4年次教諭授業観察（研修会）	1回
タ	服務事故防止研修会	2回
チ	小学校英語教育研修会	1回
ツ	中学校英語教育研修会	1回
テ	特別支援教育コーディネーター研修会	2回
ト	日本語学級担当教員研修会	2回
ナ	特別支援教室担任研修会	1回
ニ	校長ICT研修会	1回
ヌ	学校マネジメント講座	1回

(3) オーケストラ鑑賞教室

市立小・中学校児童・生徒を対象としたオーケストラ鑑賞教室を、市民会館において開催した。

(4) 教育研究奨励、教育課題等研究委託

教育研究を奨励するとともに教育研究を委託し、教職員の使命の自覚を促すとともに、資質の向上を図った。

ア 教育研究奨励校 2校

学 校	研 究 主 題
四小（2年次）	確かな学力を身に付け、数学的に考えることができる児童の育成～数学的活動を通して～
二中（1年次）	主体的な学習を促す指導の工夫～生涯にわたって能動的に学び続けられる力を育成するために～

イ 教育課題等研究校 8校

学 校	研 究 主 題
一 小	「分かる」「できる」「楽しい」確かな学力を育む授業づくり～ICT機器等の効果的な活用を通して～
二 小	思いやりの心もち、自分も他の人も大切にできる児童の育成～伝え合い、認め合う活動を通して～
三 小	ICT機器の活用～子供たちが楽しく学ぶために～
五 小	主体的に学ぶ児童の育成～適切な支援・評価・ICTの活用を通して～
六 小	学びに向かう力を育むための指導の在り方を考える～「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析を通して～
七 小	「自分の考えをもち、考えを広げ深める子ども」～探究的・創造的な学びを目指して～
一 中	主体的に学習に取り組む態度の評価の方法～学びに向かう調整力の見取り方～
三 中	主体的・対話的で深い学びの授業実践～「主体的に学習に取り組む態度」の研究を軸に～

ウ 教育課題等研究（団体）

団 体	研 究 主 題
校 長 会	「学びに向かう力（社会情動的スキル）」を育む幼保小及び小中連携の充実に向けて
副校長会	「個別最適な学び及び協働的な学びを通して、学びに向かう力を育むための副校長の役割」

(5) 特別支援教育の推進

特別支援学級の児童・生徒の安全管理及び学習指導等の充実を図るために指導補助員を配置するほか、教員向けの特別支援教育研修会等を開催し、教員の特別支援教育に関する理解を深め、指導力の向上を図った。

(6) 各種指導補助員等配置事業

小・中学校に各種指導補助員等を配置して、児童・生徒の指導補助等を行った。

事 業 名	人 数	配置時間
夏季休業中水泳指導補助員	28	335
小学校水泳指導補助員	33	493
日本語適応支援員（技能指導講師）	13	980
学習指導市民講師	35	35
特別支援学級等指導補助員	28	7,773
部活動外部指導員	29	1,044
スクールアシスタントティーチャー	65	19,945

(7) 英語教育指導助手事業

福生市英語教育推進計画に基づき、中学校全校に外国人英語教育指導助手（ALT）を配置し、中学校英語科の授業における補助を行った。また、各小学校にも随時ALTが巡回し、小学校第5・6学年の英語科の授業及び小学校の第1学年から第4学年までについても、外国語活動等における補助を行った。

指導日数：1,020日

(8) 理数教育推進事業

小学校第5・6学年、中学校全学年に理科支援員を配置し、理科授業の実験、授業等の補助を行った。

人 員：13名

活動時間：497時間

(9) 学校と家庭の連携推進事業

いじめ、不登校、暴力行為など生活指導上の課題に対応するため、小・中学校全校に「家庭と子どもの支援員」及び「スーパーバイザー」を配置した。

ア 家庭と子どもの支援員

人 員：33名

活動時間：2,550時間

イ スーパーバイザー

人 員：4名

活動時間：11時間

(10) 英語教育推進事業

「読む」・「聞く」・「書く」・「話す」の4技能を測定できる英語検定を中学校第3学年全生徒が公費で受験し、生徒の英語力向上と教員の指導力向上を図った。

(11) 福生市学力・学習状況調査（学力診断テスト委託）

一人一人の児童・生徒の学力を継続的に測るため、小学校第2学年から中学校第3学年までの児童・生徒を対象とした学力・学習状況調査を実施した。

(12) 市立学校ICT環境整備

多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを学校現場で持続的に実現させる「GIGAスクール構想」の推進に伴い、令和3年度には、電子黒板を50台、大型ディスプレイ107台を導入し、ICT環境の推進を図った。

また、校務系PCの更新に伴い、センターサーバ化を実施し、情報セキュリティ対策及び災害耐性の向上、教員の業務の効率化及び一部電子化を図った。

(13) オリンピック・パラリンピック等教育推進事業

小・中学校全校が、東京都教育委員会の指定を受け、オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、国際的なスポーツ大会等が国際親善や世界平和に果たす役割を正しく理解し、世界の国々の文化や歴史を学び、交流することを通して国際理解を深め、スポーツを通して心身の調和的な発達を遂げ、進んで平和な社会の実現に貢献することができる児童・生徒の育成に向けて、研究に取り組んだ。

各小・中学校では、指導講師等の招へい等を行った。

(14) 就学前教育と小学校教育の一層の充実に関する研究指定地区事業

就学前教育と小学校教育の一層の充実を図ることを目的として、「学びに向かう力、人間性等」（社会情動的スキル）の涵養に関する内容について慶應義塾大学に研究を委託し、市内保育園・幼稚園において調査検証を行った。

(15) 人権尊重教育推進校事業

福生第二小学校が東京都教育委員会から「人権尊重教育推進校」として指定を受け、東京都人権施策推進方針及び都教育委員会の教育目標、基本方針に基づき、人権尊重の理念を広く社会に定着させ、あらゆる偏見や差別の解消を目指すとともに、人権教育の一層の充実を図った。

(16) 授業改善推進拠点校事業

福生第六小学校が東京都教育委員会から「授業改善推進拠点校」として指定を受け、児童・生徒の学力向上を図るため、学習状況調査等の各種調査を行った。